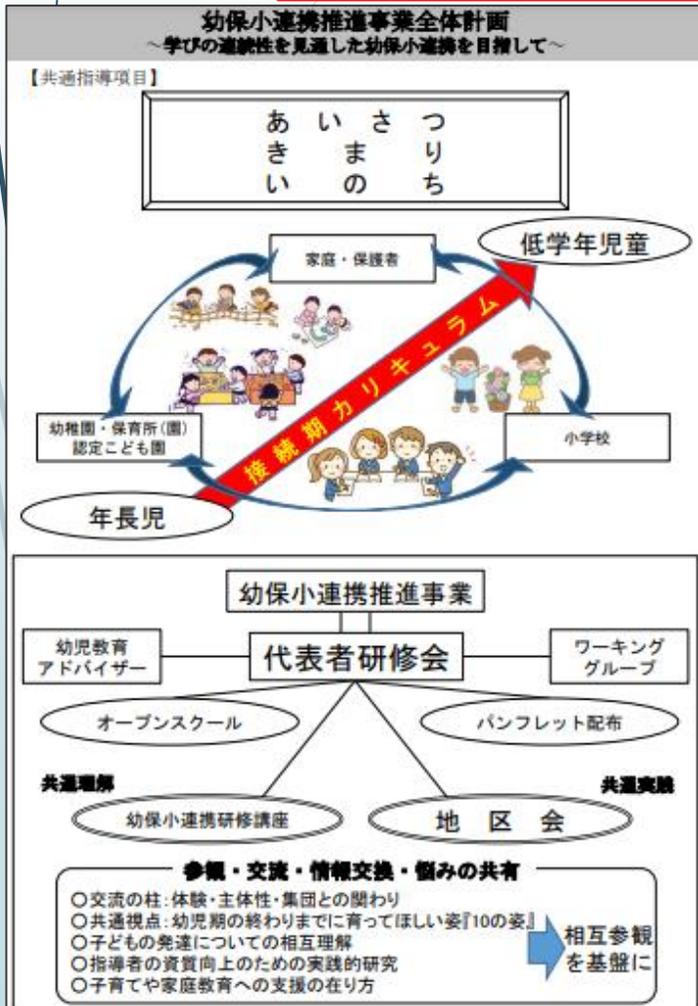


令和4年度幼保小連携推進事業

◆ 趣 旨

市内全域の幼稚園・保育所(園)・認定こども園・小学校の教職員が、子どもの発達や互いの教育内容についての連携を深め、互いに理解し尊重し合っ
て、幼児児童の学びの連続性を図る。



◆ 主な取組

- ・入学予定の幼児の保護者向けパンフレット
「わくわくいっぱい いちねんせい」の配布
- ・幼保小連携研修講座の開催
- ・地区会及びオープンスクール
代表者会議にて上記事業の検討(5月、2月)

◆ 他にも・・・

- ・相互参観の推奨
- ・教科等研究委員「幼保こ小連携」部会にて、
接続の在り方について研究
- ・総合教育センター研修講座の
幼児教育施設への開放

令和4年度 幼保小連携推進事業

令和4年度 幼保小連携推進事業 実施内容

代表者研修会

幼稚園長、保育園長、認定こども園長、小学校長、保護者の各代表者、八戸学院短期大学部准教授1名、関係機関、教育委員会で事業の検討を行う。

- 第一回
 - 期日：令和4年5月12日(木)
 - 場所：八戸市庁本館3階
議会第一委員会室
 - 内容：①令和4年度事業内容について
②令和4年度研修講座について
③その他
- 第二回
 - 期日：令和5年2月13日(月)
 - 方法：八戸市庁本館3階
議会第一委員会室
 - 内容：①令和4年度事業内容について
②令和5年度事業内容について
③その他

保護者向けパンフレット

来年度小学校へ入学する幼児の保護者へ、小学校をイメージし期待感や安心感をもって入学を迎えられるようパンフレットを配布する。

- 6月：市内幼児教育施設95園
八戸市立各小学校42校へ配布
- 10月：八戸市立各小学校42校へ配布
(就学時健診に、
家庭保育の保護者へ配布するため)

※令和4年度版より、幼児教育から小学校教育への学びの連続性を意識し、期待感や安心感をもって入学を迎えられるよう、内容を改訂した。

令和4年度版パンフレット
「わくわくいっぱい いちねんせい」はこちら



令和4年度 幼保小連携推進事業

令和4年度 幼保小連携推進事業 実施内容

幼保小連携研修講座

外部講師による講演と参加者同士による情報交換を通じて幼児教育と学校教育の相互理解を促進させ、教職員の資質の向上を図る。

- 期日：令和4年9月1日(木)
方法：Zoomによるオンライン開催
- ◆全体会
 - ・講師：国立特別支援教育研究所
上席総括研究員 久保山 茂樹 氏
 - ・演題：『幼児の成長と
小学校への円滑な接続』
～園でのかかわりを学び、
小学校でも活用するために～
- ◆分科会（グループ）
「幼稚園・保育園・認定こども園・
小学校の教職員による話合い」
- ・内容：①学びの連続性やそれぞれの
段階における課題の共有
②支援の共有

オープンスクール

幼児・保護者が、入学前に入学予定小学校の教育活動を見学できる機会として設定し、入学への不安軽減を図るとともに小1プロブレムの解消に寄与する。

- 各小学校で感染症対策を講じながら実施
- ◆取組例
 - ・園児による学校施設や授業等の見学
 - ・学校行事、園行事への参加
 - ・行事以外の交流活動の設定
 - ・個別の学校見学対応
- ◆コロナ禍における工夫した取組
 - ・学校紹介ビデオ・パンフレットの作成と送付
 - ・長期休業中やえんぶりの日に園児を招待し、学校施設見学を実施
 - ・新入生説明会に保護者と共に来校して、説明会の間教室で過ごす体験の実施

令和4年度 幼保小連携推進事業

令和4年度 幼保小連携推進事業 実施内容

地区会

幼児児童に関する情報共有・情報交換や教職員による交流により、幼児児童の円滑な接続を図る。

○各小学校区で感染症対策を講じながら、教員同士の交流や幼児児童の情報交換を実施。

◆幼児児童の情報交換

・実施方法：小学校が園を訪問(参観含)
園担当者が小学校来校
電話及び文書

・内 容：幼児の長所、園生活について
友達との関わりについて
家庭に関すること

◆相互参観

・令和4年度実施：5校
・幼児教育・保育施設教職員が小学校を訪問し参観する機会はあるが、小学校教職員が園を訪問して参観する機会は少ない。

教科等研究委員

「幼保こ小連携」部会において、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に関する研究を行う。(2年計画1年次)

○研究員：桔梗野小学校低学年担任
連携園：こもれびのもり幼稚園
桔梗野保育園

◆研究テーマ

「幼児教育と小学校教育の円滑な接続
に向けた架け橋期のプログラム研究」

◆主な取組：連携園との相互参観
教職員同士の定期的な交流
連携園とのカリキュラム共有

◆成果と課題

・相互参観、交流を定期的にもつことで、学びの連続性を図り、指導に生かすことができた。
・時期の設定、カリキュラムの具体的な共有

令和4年度 幼保小連携推進事業

令和4年度 幼保小連携推進事業 成果と課題

◆成果

- ・徐々に互いの教育・保育内容の理解や、連携体制の構築が図られてきている。
- ・コロナ禍でも、「オープンスクール」の開催が増えてきている。感染対策のため、長期休業日や学校休業日に幼児を招き学校探検したり、新入生説明会に保護者と一緒に登校し教室で過ごしたりして、幼児の入学に対する不安軽減が図られている。
- ・「相互参観」の取組が見られるようになった。まだ一部ではあるが、実施した小学校区では、教育・保育内容の理解の促進、教職員の信頼関係の構築が図られている。
- ・教科等研究委員「幼保こ小連携」部会において、接続に関する研究が始まった。幼保こ小の円滑な接続に向けた取組の在り方について研究が進められた。

◆課題

- ・「相互参観」の取組は見られるが、まだ一部での実施である。参観する時間の確保が課題となるが、意義も大きいいため、今後も周知を図っていく必要がある。
- ・小学校のスタートカリキュラム、幼児教育・保育施設のアプローチカリキュラムの共有が必要である。「架け橋プログラム」に向けて、交流の際にカリキュラムについても話題とするよう周知していく。

◆今後の方向性

- 令和5年度特に重視する取組
 - ・相互参観の実施
 - ・カリキュラムの共有